

# CSR コミュニケーション レポート 2012

## がん患者の生活をサポート VOL-NEXT

アデランスは、患者様が安心して、医療向けウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社である VOL-NEXT 社による医療講習を実施しています。



アデランスは、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。

このマークは、ピンクリボンフェスティバル（日本対がん協会など主催）のマークです。

## ～みんなでひとつになろう～ One World プロジェクト

アデランスは、「One World プロジェクト」（協力 / 公益財団法人日本対がん協会、後援 / J-CAN）の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



アデランスは、ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



株式会社 **アデランス**

CSR プロジェクト

〒160-0007 東京都新宿区荒木町 13 番地 4

住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

2012 年 8 月発行

株式会社 **アデランス**

## 編集方針

株式会社アデランス

「CSR コミュニケーションレポート 2012」 発行にあたり

私たちアデランスグループは、お客様からの信頼、そして広く社会からの信頼に基づいた、健全で永続的な企業成長を図るために、社会的価値の創造に取り組んできました。

社会的価値の創造とは、事業活動を通じて、どのような役割を果たしていくのかを考え、行動することと、当社は考えています。

この CSR コミュニケーション・レポートは、当社の今までの取り組みをまとめた、初めての冊子となります。今回は、これまで当社がどのような取り組みを行ってきたか、そして現在行っているのか、といった内容を中心に構成しております。

お客様、お取引先、社員、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

## お問い合わせ先

株式会社アデランス CSR プロジェクト  
東京都新宿区荒木町 13 番地 4 住友不動産四谷ビル

TEL: 03-3350-3542

E-mail: csr@aderans.com

## 報告書の対象期間と範囲

対象期間：2011 年 3 月～2012 年 2 月まで。ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

## 対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

## 参考にしたガイドライン

- ・ GRI (Global Reporting Initiative) 「サステナビリティ・レポート・ガイドライン」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン」
- ・ ISO26000 (社会的責任に関する手引)
- ・ 国連グローバル・コンパクト

## 発行年月と次回発行予定

発行日：2012 年 8 月

次回：2013 年 8 月予定

## 目次

編集方針他	1
目次	2
GRI 対照表	

コミュニケーション編		活動データ編	
社長メッセージ	3	副社長メッセージ	11
会社概要	4	コーポレート・ガバナンスと内部統制 コンプライアンス	12
特集 1 アデランスの CSR	5		
CSR に関する基本方針と推進体制	7	社員との関わり	13
特集 2 CSR トピックス	9	行動規範の徹底順守	14
「愛のチャリティーキャンペーン」通年化		お客様の笑顔とよろこび	15
病院内理美容室への移動式美容イス全店導入		コミュニティ参画	17
「One World プロジェクト」で ウィッグの「お手入れ支援サービス」開始		研究開発	18
タイの病院等へウィッグの寄贈		環境	19
スカルプケアサイエンスの共同研究を開始		ステークホルダー・ダイアログ	21
		活動実績データ	22

## GRI 対照表 (簡易版) 詳細の GRI 対照表は、当社 Web サイトの CSR ページをご覧ください。

項目	該当ページ	項目	該当ページ
【1. 戦略および分析】	3, 11, 12	【4. ガバナンス、コミットメントおよび参画】	
【2. 組織のプロフィール】	4	ガバナンス	12
【3. 報告要素】		外部のイニシアティブへのコミットメント	12, 17, 19
報告書のプロフィール	1	ステークホルダー参画	17
報告書のスコープおよびバウンダリー	1, 7	【5. マネジメント・アプローチ およびパフォーマンス指標】	
GRI 内容索引	2	[ 経済 ]	※
保証	21	[ 環境 ]	19
		[ 労働慣行とディーセント・ワーク (公正な労働条件) ]	13
		[ 人権 ]	14
		[ 社会 ]	17
		[ 製品責任 ]	15

※[ 経済 ]に関する内容は、当社「有価証券報告書」をご覧ください。

# 社長メッセージ

毛髪への思いを追求し、  
世界に「笑顔」と「よろこび」が溢れる、  
社会的価値の創造に取り組みつづけます



企業は社会の一員であり、社会の持続可能な発展に貢献することを前提として、その上に企業の存続があります。

当社は、1968年の創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで事業に取り組み、当社商品をご利用いただくお客様の夢と感動を大切にしてきました。

現在「アデランス」という社名は幸いにも多くの皆様に知っていただけるようになり、また多くのお客様に当社商品をご利用いただいております。その分、お客様や社会に対する、当社の責任は大きくなっていきます。

その責任を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えます。

今後も、お客様の毛髪に関する悩みの解決に、一人ひとりの社員が取り組むことで、社会的価値の新たな創造に挑戦していきたいと考えます。

株式会社アデランス  
代表取締役会長兼社長  
根本 信男

## 経営理念

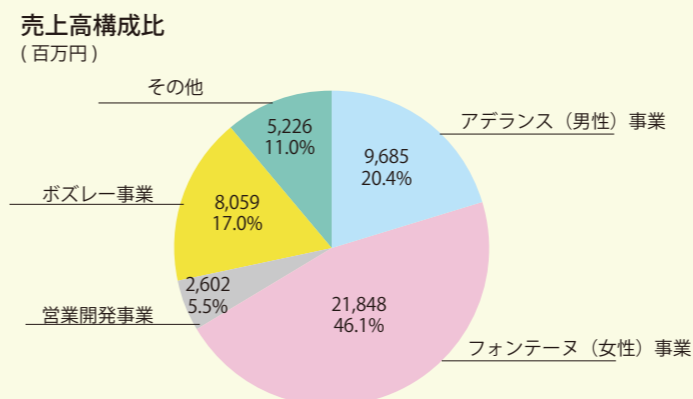
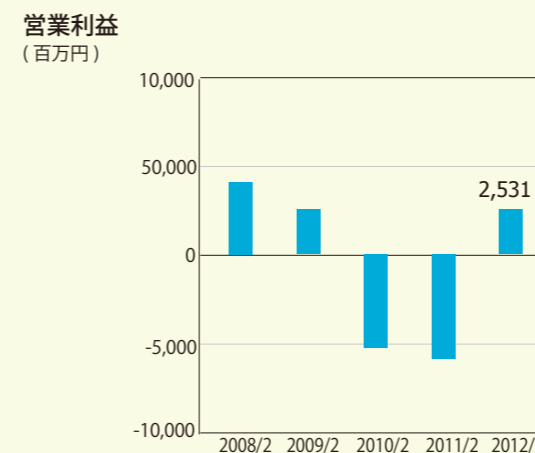
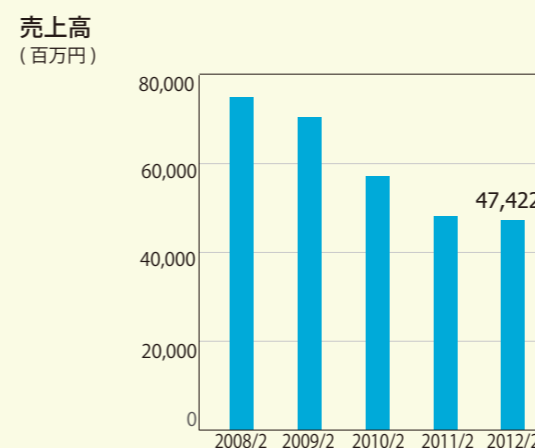
私たちアデランスグループの最大の使命は、  
毛髪関連事業を通じて、  
より多くの人々に夢と感動を提供し  
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです。

私たちが目指すもの  
「最高の商品」  
「最高の技術」  
「心からのおもてなし」

## 会社概要

商号：株式会社アデランス  
(英文名称：Aderans Co., Ltd.)  
設立年月日：1969年(昭和44年)3月1日  
資本金：12,944百万円  
本店所在地：東京都新宿区荒木町13番地4  
(登記上) 住友不動産四谷ビル6階・7階  
TEL：03-3350-3111(代表)  
代表者：代表取締役会長兼社長 根本 信男  
事業内容：毛髪関連事業およびグループ会社の  
経営管理ならびにそれに付帯する事業  
連結従業員数：4,160名(2012年2月末現在)  
上場証券取引所：東京証券取引所 第一部  
コード番号 8170  
連結子会社数：23社(2012年2月末現在)

## 直近の業績



## 主な事業概要

### アデランス事業

# ADERANS

毛髪のプロフェッショナルとして、ウィッグやヘアケア商品の充実に努めています。「髪を増やす」「髪を育てる」という2つのアプローチから、カウンセリングをもとに一人ひとりのお客様に最適な提案を行っております。

### フォンテーヌ事業

# FONTAINE

女性にとってウィッグはライフシーンを演出する重要なアイテム。いつまでも、いつまでも美しくありたいと願うすべての女性のために、レディメイドからオーダーメイドまで女性のライフスタイルを彩る魅力的なブランド展開を進めております。

### ボズレー事業

# BOSLEY

世界60ヶ国20万例以上に及ぶ治療実績を誇るBOSLEYの自毛植毛。その信頼性は高く、注目を浴びています。さらに、バイオテクノロジーによる自毛培養など、次世代の可能性にも挑んでおります。

### 海外ウィッグ事業

男性・女性用のオーダーメイド・ウィッグ、レディメイドウィッグなどの卸売・小売を展開しております。

## 最新の商品や業績

製品や業績に関する最新の情報は、  
当社のWebサイトでご確認いただけます。

(製品に関して)  
<http://www.aderans.com/business/index.html>

(業績に関して)  
<http://www.aderans.com/ir/library/index.html>

## これまでも、そしてこれからも続けていく 「笑顔とよろこび」のアデランスの CSR

### お客様に夢と感動をご提供

アデランスグループは、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで、1968年に、男性向けのウィッグの製造・販売を始めました。

毛髪に関する悩みは、お客様にとって非常にデリケートな内容ですが、お客様のお悩みを解決すると、喜々として生き溢れる表情に変わります。当社の提供する商品は、お客様の生活を豊かにするプラス志向アイテムであると考えます。

経営理念で「私たちが目指すもの」として掲げている「最高の商品」「最高の技術」「心からのおもてなし」は、一つだけ実現しても不十分で、3つ揃って初めてお客様のお悩みを解決するものです。

全ては、お客様の毛髪に関する悩みをどう解決していくか、という思いであり、当社が果たすべき役割として、お客様に夢と感動をご提供するために、社会的価値の創造に挑戦を続けてきた結果と考えています。

#### 最高の商品

お客様が満足してご利用いただけるよう、グループ内に生産工場を持ち、生産販売一貫体制の構築、ISO9001基準を満たす品質の高い商品の提供などに取り組んできました。

#### 最高の技術

理容師や美容師の資格を有する、理美容に関する最高の技術を持つスタッフが、お客様の多様な毛髪に関するニーズを実現してきました。

#### 心からのおもてなし

商品のご利用前後、お客様の不安・不満をお聞きし、解決することが、当社の販売スタイルの基本として取り組んでいます。



「お客様の毛髪のお悩みを解決する」ために、創業以来、アデランスグループでは「お客様に夢と感動を提供すること」を理念として、事業を展開してきました。「夢と感動のご提供」のために「社会的意義のある価値」を提供することこそが、当社の事業の基盤であり、今後もお客様の期待に応えなくてはならないと強く認識しております。

ここでは、これまでの「社会的意義のある価値」を、「お客様に夢と感動を提供」「毛髪・ウィッグ文化の創造と発展」「笑顔とよろこびを広げる」の観点からご紹介します。

### 毛髪・ウィッグ文化の創造と発展

創業当初、日本において、まだまだ認知度の低かったウィッグに対して、アデランスグループはいろいろな取り組みを進めてきました。

- ・技術研究を重ねた様々な商品の開発
- ・学術的な毛髪研究への協力
- ・劇団四季等 舞台へのウィッグ提供

こうした取り組みにより、お客様の多種多様なニーズに応える毛髪技術の実現、女性の美を彩るウィッグの普及など、日本における、毛髪・ウィッグ文化の繁栄に貢献できたのではないかと考えています。

また、お客様が安心してご利用いただけるよう、毛髪関連の業界団体を設立するなどして、悪質な商品や行き過ぎた営業などの防止に努め、業界全体の質向上に取り組んできました。

(詳細は 16 ページ、18 ページをご覧ください。)



Photo by Atsutoshi Shimosaka

### 笑顔やよろこびを広げる

当社の商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、アデランスグループが国内外で取り組み続けています。(詳細は 17 ページをご覧ください。)

#### 「愛のチャリティーキャンペーン」

当社では、病気やケガなどを原因とする脱毛に悩む小学生・中学生にオーダーメイドウィッグをプレゼントする取り組みを「愛のチャリティーキャンペーン」として 1978 年から継続して行っています。

(毎年クリスマス時期に行っていた、このキャンペーンを通年で行う予定です。詳細は 9 ページをご覧ください。)



# CSR に関する基本方針と推進体制

アデランスグループの CSR は、企業成長戦略として、「お客様の毛髪のお悩みを解決する」ために、当社が実現できる価値や強みを「事業と一体化」することにより、「企業価値の向上」に寄与することを目指しています。ここでは、CSR に対する当社の考え方を紹介します。

## CSR 方針

私たちは、お客様基点に、社会的価値の創造に取り組み続け、毛髪・ウィッグ文化の豊かな繁栄に貢献し、笑顔とよろこびを広げていきます。

## CSR 活動体系

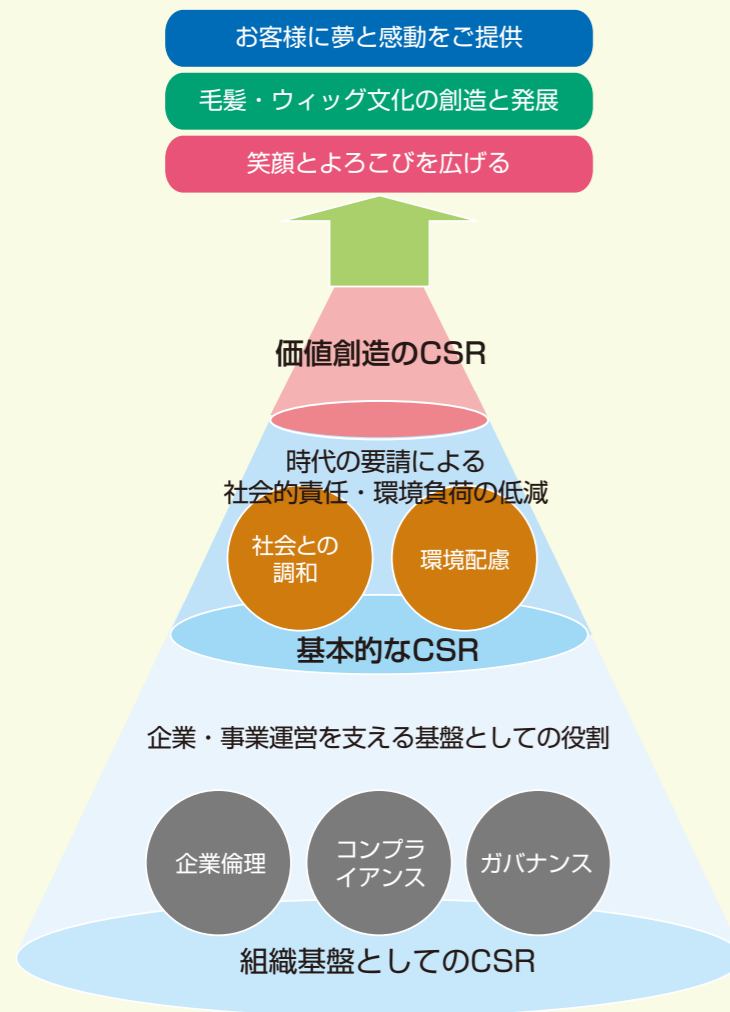
アデランスグループは、創業以来、お客様の髪のお悩みを解決するために、真摯に取り組み、活動を続けてきました。常に新たな社会的価値を創造することで、毛髪・ウィッグ文化が栄え、世の中の笑顔やよろこびを広げたいと考えます。そのために当社は何が出来るかを、すべての人々と共に考え、行動していきます。

アデランスグループは、こうした活動を三つの CSR 体系で考えています。

「価値創造の CSR」は、事業活動を通じて、毛髪・ウィッグ文化が豊かになり、世の中に笑顔やよろこびを広げる、社会的価値の創造を行う活動です。

「基本的な CSR」は、事業を行う上で、企業市民として、社会的責任や環境配慮など、社会から求められる活動です。環境配慮では、製造工場での ISO14001 の取得、商品リサイクル対応など、様々な活動に取り組んでいます。

「組織基盤としての CSR」は、企業倫理やコンプライアンスなど、企業が事業活動を行う上で、土台となる活動です。不祥事や様々なリスクの発生を未然に防ぎ、また問題発生の際にはその影響を最小限にするための活動を行っております。

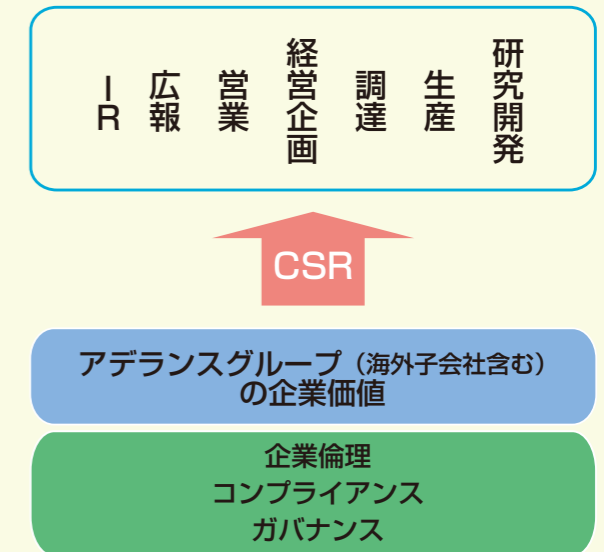


## CSR 推進体制

アデランスグループの CSR 活動は、お客様をはじめとする、社会の様々な期待に、どのようにすれば応えられるかを、グループ内の各部署一人ひとりが考えながら進めています。

当社の社風の原点は、それぞれの社員に対して「まずはやってみたら？」と、積極的に社員からの提案を取り入れることです。これまでの当社を振り返ると、この社風はアデランスの成長を支えてきた原動力だと考えています。

そして、その各社員のやる気・行動を適正な形で発展させることこそが当社の CSR であり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えます。



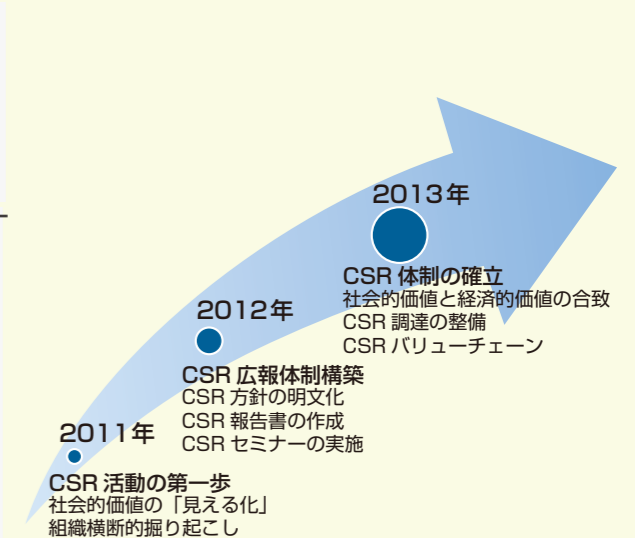
## アデランスのこれからの CSR

アデランスグループが目指す CSR 活動の中で、今後特に重点的に取り組むべき項目をご紹介します。

### CSR 活動の目標項目

価値創造の CSR	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様に夢と感動をご提供</li> <li>毛髪・ウィッグ文化の創造と発展</li> <li>笑顔とよろこびを広げる</li> </ul>
基本的な CSR	<p><b>コンプライアンスの徹底</b> コンプライアンス・ガバナンス委員会を核とした体制により、組織内でのコンプライアンス意識を強化するとともに、CSR 意識の醸成に努めます。</p> <p><b>CSR 活動の積極的なコミュニケーション</b> ステークホルダーとの関係強化を目指し、積極的なコミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様と誠実な対話に努めます。</p>
組織基盤としての CSR	<p><b>CSR 調達の推進</b> すべての取引先との公正で公平な取引を徹底するとともに、取引先との連携により、事業活動における環境や社会に対する企業としての取り組みを推進し、相互の企業価値向上を目指します。</p>

### CSR 活動の 3 年イメージ



アデランスグループが現在取り組んでいる活動の中から、「毛髪・ウィッグ文化」「笑顔やよるこび」に関連する、最近のトピックスをご紹介します。

### 「愛のチャリティーキャンペーン」通年化

当社では、病気やケガなどを原因とする脱毛に悩む小学生・中学生に対してオーダーメイドウィッグをプレゼントする取り組みを「愛のチャリティーキャンペーン」として1978年から継続して行っています。第27回を迎えた2011年には、200人の子どもにウィッグを贈りました。

このキャンペーンのきっかけは、様々な原因で脱毛による心の傷を負っている子どもがいるという事態を目にしたこと。「お子さまはもとより、ご家族や周囲の人々の笑顔のきっかけになってほしい」と考えてキャンペーンを実施しています。

クリスマス時期に行っていた、このキャンペーンを、2012年9月より通年で行うことになりました。



上ポスターは第26回のもので

### 「病院内理美容室への移動式美容イス全店導入

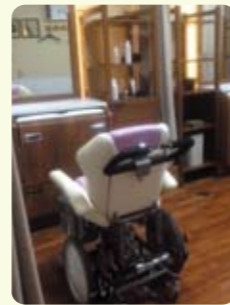
病院で療養中の患者様には抗がん剤の影響などによる脱毛に悩む人が多くおり、病院ではこうした患者様の相談に応えることが難しい状況でした。

そこで当社は、病院内に理美容室（ウェルネスヘアサロン）を開設し、そのようなケアを必要とされる患者様に、ウィッグ商品やアフターケア、日常の頭髪への技術サービスなどを提供しています。取り組み開始から6年間で、現在13店舗を展開しています。療養中の患者様やその家族、病院職員などの皆様にご利用いただいています。

また、ウェルネスヘアサロンでは、全店でバリアフリーを実現し、車イスでの来店も可能だけでなく、移動の困難な患者様が病室でもカットを受けられるように、移動式の美容イスも導入しています。



第1号店舗（静岡がんセンター）



移動式美容イス

移動式美容イス 有限会社ビューティフルライフ製

#### 特徴

医療や介護の現場で、または災害時の医師や介護者が求めるあらゆる要求をクリアする、安全性と快適性を追求した、移動式美容イス

- ・ベッドからの移乗もラクラク
- ・長時間座っても快適な耐圧分散シート構造
- ・2タイプの枕でさらに快適
- ・走行中やリクライニング、上下昇降時もしっかりサポート

### 「One World プロジェクト」でウィッグの「お手入れ支援サービス」開始

当社は、東日本大震災で被災された、がん患者様に対して医療向けウィッグなどのケア用品を届ける支援団体「One World プロジェクト」の活動に賛同し、ウィッグの「お手入れ支援サービス」を開始しました。これは、同団体が寄付したウィッグに対し、当社の店舗で通常価格の半額でメンテナンスを実施するというものです。

「寄付したウィッグについて、お客様からフィット性などに関するお悩みが寄せられ、相談を受けた」ことが支援のきっかけでした。当社の医療事業活動でのノウハウや、理美容の技術を活かして、今後も被災された方々のお役に立ちたいと考えています。

### タイの病院等へウィッグの寄贈

2012年6月11日、アデランスグループの生産拠点の一つであるタイで、病院等へのウィッグ寄贈式を行いました。工場にて試作していたウィッグは、これまで廃棄していましたが、今回その完成品に近い状態の試作ウィッグを寄贈し、ご利用いただくというものです。寄贈式では、脱毛により不安感を抱いた患者がウィッグをつけることによって自信を取り戻すという、喜びの表情を見ることができました。

提供先病院：国立癌研究所、ジュラーポーン病院、タンマサート大学病院

### スカルプケアサイエンスの共同研究を開始

アデランスグループでは、お客様の髪のお悩みを解決すべく、いつの時代にも毛髪研究の先駆者として研究開発に取り組んできました。

人工毛髪の研究を始めたのは1983年。以来、毛髪に関するお悩みを一層解決できるように研究開発を進め、「サイバーヘア」や「バイタルヘア」などの商品を生み出してきました。

近年は大学などとの共同研究も盛んです。2012年より新たな共同研究の一つとして、老年看護学・創傷看護学分野を専門とする東京大学大学院医学系研究科・真田弘美教授と、スカルプケアサイエンスに関する共同研究を開始しました。



「One World プロジェクト」とは、2011年3月に発生した東日本大震災を機に、被災地でさまざまな物資を必要とするがん患者様のために、医療関係者やNPO法人が有志で集まり、ボランティア活動を行う被災地支援プロジェクトです（協力/公益財団法人日本対がん協会、後援/J-CAN）。

#### ご利用者様からの声

これまでタオル帽子で過ごしていましたが、今回のウィッグのことで、利用を始めてみました。3歳の子供から「大好きなかわいいお母さんにもどった!」とよるこんでいました。(20代・女性)

ウィッグは専門家による調整がないと、患者さんが使えないことが多く、このようなご協力いただき、喜んでいる患者さんも多いです。(病院関係者)



# 副社長メッセージ

コンプライアンス、CSR の徹底  
さまざまな社員が挑戦できる企業文化



株式会社アデランス  
代表取締役副社長  
石古 茂

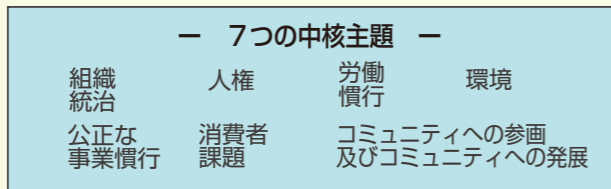
企業におけるコンプライアンスとは、社会におけるインフラ・基盤のように、整備されていなければ社会に混乱が起きると同様に、コンプライアンスがきちんと整備形成されていなければ、確固たるビジネスモデルの構築はできません。

当社の財産とも言うべき社員たちは、お客様の悩みの解決に向けて、様々な立場で日々の業務に取り組んでおります。これらの取り組みの主体は、一人ひとりの社員であり、企業活動はその総和によって成り立っています。

これからも、すべての社員が自らの社会的責任を自覚し、自分たちの持つ能力を最大限に発揮し、また新たな能力を身につけ、やりがいを持って柔軟に働ける、CSR 意識溢れる企業グループを目指してまいります。

次ページより、アデランスグループの様々な活動を「活動データ編」としてご紹介します。

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格 ISO26000 が 2010 年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動を、ISO26000 の 7 つの中核主題に基づき分類しています。



# コーポレート・ガバナンスと内部統制、コンプライアンス

— 7つの中核主題 —

組織統治  
公正な事業慣行

人権  
消費者課題

労働慣行  
コミュニティへの参画及びコミュニティへの発展

環境

アデランスグループは、お客様はもとより、株主、従業員等あらゆる利害関係者の満足度を高めるために、コーポレート・ガバナンスの充実に努め、適切な事業戦略を基に、スピーディかつ効率的な業務執行が行えるよう機動的な組織を構築し、企業活動に関わるすべての利害関係者に対して経営の透明性と情報の公正かつ適時開示を行うことを基本方針とした経営を行っております。

## コーポレート・ガバナンス体制の特徴

当社は、監査役制度を採用し、取締役会・監査役会・経営会議・コンプライアンス・ガバナンス委員会の各機関により経営の運営、法令および定款の適合の確認を行っております

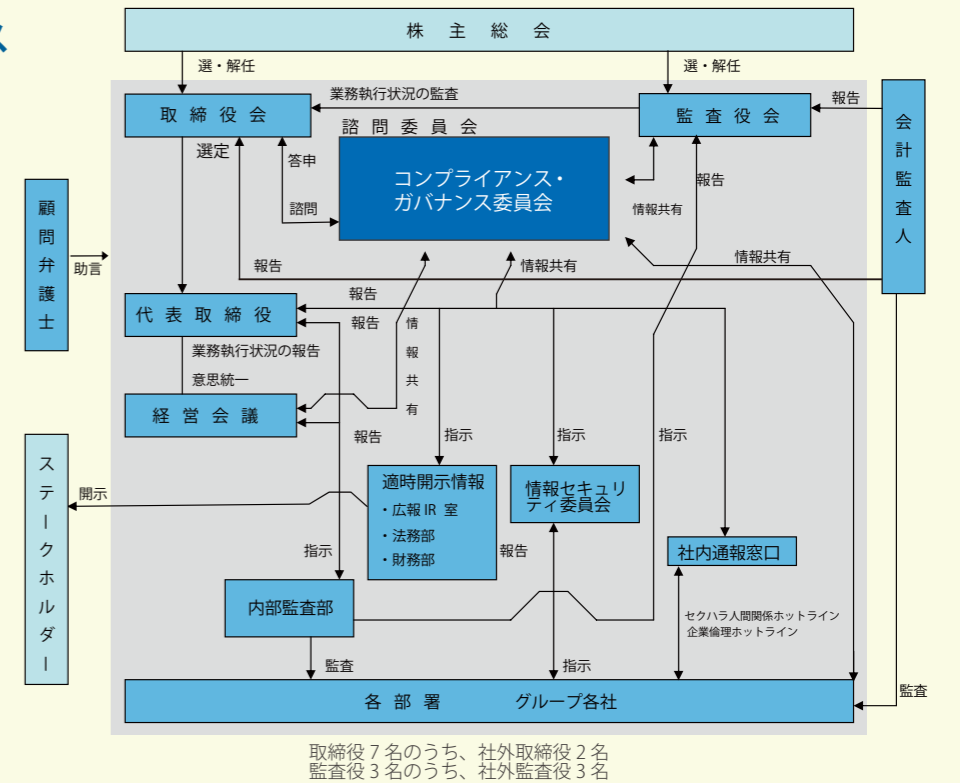
## コンプライアンス・ガバナンス委員会

取締役の機能強化の観点から委員会設置会社制度を採用しておりませんが、諮問委員会として「コンプライアンス・ガバナンス委員会」を設置し、ガバナンスの強化を進めております。

「コンプライアンス・ガバナンス委員会」は、社外取締役が委員長（リーダー）となり、他取締役で構成し、必要に応じ実務担当執行役員を招聘し、原則として毎月 1 回開催しております。グループ行動規範に基づいたコンプライアンスの徹底を図り、リスクの早期発見とコンプライアンス意識の啓発を行い、取締役会および経営会議の職務・運営の妥当性・効率性を確認し、取締役会や経営会議に助言します。

## 内部統制システム

当社は、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制ならびにその他業務の適正を確保するために、「内部統制システムに関する基本方針」を制定し、内部統制システムについて不断の見直しによって継続的な改善を図っています。



## 教育研修

コンプライアンス徹底に、役社員一人ひとりの意識の醸成や、必要な法令知識の獲得は、欠かせないものであり、そのための教育・研修をコンプライアンス推進の重要な柱のひとつと考えています。

## 経営倫理実践研究センター主催のセミナーへの定期的な参加

経営倫理実践研究センターが主催する「経営倫理総合部会」「コンプライアンス担当者の為の法令研究会」「企業不祥事研究会」など、年間通じて約 100 回の部会・研究会に、役社員が参加しています。

## コンプライアンスセミナーの社内開催

事業の現場である営業部門が主体となり、東京交通短期大学・学長の田中宏司教授をお招きし、「コンプライアンス経営の推進～経営層の役割とリーダーシップ～」のセミナーを社内で開催いたしました。

## 田中教授を招いたセミナー風景



# 社員とのかかわり

アデランスグループは、個々のキャリアを重視し、働きやすい職場環境やメリハリのある働き方の実現を通じて、国籍・人種・性別・年齢を問わず多様な人材一人ひとりが最大限能力を発揮し活躍できる、魅力ある会社・企業風土を目指していきます。

## 従業員の状況

アデランスグループでは、社員のやる気・やりがいを高め、社員が安心して能力を最大限発揮し、新しいことにチャレンジできる環境の整備を進めています。また、社員の価値観・個性を尊重し、国籍・人種・性別・年齢に関係なく、多様な働き方の支援やメリハリのある働き方の実現を通じて、多様な人材が働きやすい環境の整備を目指しています。

### 男女別従業員数(国内) (単位:名)

	男性	女性	計
2009年度*	78	19	97
2010年度	1,192	1,286	2,478
2011年度	962	1,041	2,003

(※アデランスホールディングス時の単体人数)

### 地域別従業員数 (単位:名)

	2011年度
日本	2,003
国外	2,157
総計	4,160

## 社員の健康管理

当社では、年に1回、全社員に健康診断を、また希望者に「人間ドック」を実施しています。

産業医については、法定に従い、常時50人以上の労働者を使用する事業場にて選任しております。現在当社にて、常時50人以上の労働者を使用しているのは、東京で2事業所、大阪で1事業所の合計3事業所となっておりますので、これらの事業所について、社外の施設に所属する医師と産業医契約を結んでおります。

## 福利厚生・有給休暇制度の充実

社員がより一層メリハリのある働き方ができるよう、育児休暇制度や、短時間勤務などの育児をサポートする制度や、長時間労働防止の観点から「帰りを促す定時アラーム」を実施したり、と様々な労働環境の整備を強化しています。

## 人材育成

当社では、クレド(クレドの詳細は15ページ参照)に基づき「感動サービス」を実践する社員こそが、もっとも大切な財産と考えています。

知識や能力の向上を図ることのできる社内研修制度を、社員の階層別にきめ細かく実施しております。

### 研修内容例

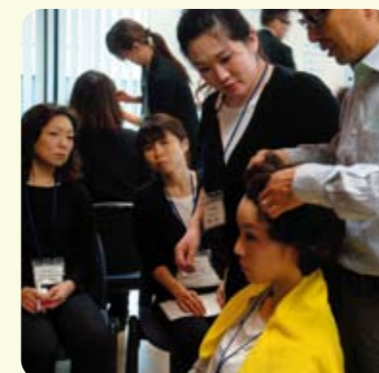
- メディケア講習会：随時
- コンプライアンス研修：随時
- 営業管理担当者研修：年1回
- オーダー研修：毎月
- レディメイド基礎研修：毎月
- レディメイド基礎フォロー研修：随時
- レディメイドカット研修：随時
- レディメイドサイズ研修：随時
- 新任店長研修：随時
- 新任副長研修：随時
- 新入社員研修：入社時
- 中途入社技術社員研修：随時
- 新商品購入：随時



新任副長研修



コンプライアンスセミナー



レディメイド基礎研修

# 行動規範の徹底遵守

アデランスグループは、行動規範を定め、お客様や社会より信頼される会社となるために、アデランスグループとその構成員一人ひとりが心がけるべき行動や心構えの徹底を推進しています。

## 行動規範教育の推進

行動規範の周知徹底はもちろん、継続的な教育を通じて、社内に根付かせ、風化させることのないように努めています。

### 新入社員研修

毎年入社直後に、クレドの謳う、心がけるべき行動や心構えを習得するよう、研修を行っています。

### 継続的な社内研修

セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの問題を取り上げ、防止策などについて議論を行い、啓発を図っています。



内部統制会議

## 相談窓口の設置

「セクハラ・人間関係ホットライン」「企業倫理ホットライン」など、社員が抱える悩みや相談に対応する窓口を設置し、相談できる体制を整えています。

## 雇用における多様性確保・機会均等への取り組み状況

アデランスグループでは、人物本位の採用を実施しており、年齢・性別・国籍等にとらわれない公平・公正な採用を実施しています。

## お客様への配慮

様々な状況のお客様を配慮した取り組みを進めています。

### 病院内理美容室への移動式美容イス全店導入

病院でがん治療等の療養による、脱毛に悩まれる患者様の事を考え、病院内に理美容室(ウェルネスヘアサロン)を開設し、さらに全店でバリアフリーを導入しております。車イスでの来店が可能であるだけでなく、移動の困難な患者様が病室でもカットを受けられるように、移動式の美容イスも導入しています。(9ページ参照)

### 店舗一覧(13店舗 2012年6月時点)

- ・静岡県立静岡がんセンター店
- ・東京通信病院店
- ・がん研有明病院店
- ・埼玉医科大学国際医療センター店
- ・日本赤十字社和歌山医療センター店
- ・県立広島病院店
- ・九州医療センター店
- ・仙台医療センター店
- ・長崎医療センター店
- ・北海道がんセンター店
- ・栃木県立がんセンター店
- ・東京医療センター店
- 他

## サプライチェーンにおける人権

サプライチェーンにおける人権・労働への配慮は、グローバルな事業活動を行う企業にとって重要なCSR課題のひとつです。

### 人毛使用率の削減

これまでほとんどのウィッグには人毛が使われてまいりましたが、アデランスグループでは、1983年より人工毛髪の研究を始め、人毛に劣らない人工毛髪の開発に成功し、1990年より「サイバーヘア」「バイタルヘア」などの商品として提供しております。

(詳細は18ページ参照)

## 国連グローバル・コンパクトへの取り組み

アデランスグループは「国連グローバル・コンパクト」の基本原則を参考に、従業員に対して「労働基本権の保障」を目指しています。

### 国連グローバル・コンパクト <抜粋>

- 企業は
- 原則1. 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
  - 原則2. 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

### 適切な接客のための医療講習

当社では、2005年に初めて医療向けウィッグを発売しました。その際に、医療向けウィッグの購入者は、多くが患者様であり、各疾病や脱毛の原因などに正しい知識を持つことや、お気持ちを十分に踏まえて接客することが重要となるため、接客にあたるスタッフ全員に対して、外部講師による医療講習の受講を義務付けました。

(16ページ参照)



# お客様の笑顔とよろこび

アデランスグループは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げております。お客様の満足と信頼を高めていくために、当社が一丸となって取り組んでいる活動をご紹介します。

## 「クレド」

2009年、当社の社員自ら集まり、お客様の満足とは何かを考え、全社員が共通の認識を持ち、行動できるように、「クレド (Credo)」をまとめました。クレドとは、判断・行動の基本となる信条、志、約束などの意味で、当社の全社員は常にクレドを携帯し、経営理念およびクレドの実現に向けて行動（「考え」+「行動」）します。

## お客様へのサービスポリシー

クレド内に「お客様へのサービスポリシー」として、お客様に対する基本的なサービスの姿勢・考え方をまとめ、実施しております。

## お客様の声の収集・共有

「お客様サービス部」に寄せられるご意見やお問い合わせ、また店頭での接客の際にお聞きしたお客さまのご意見などを頂戴いたします。それらの情報を社内でも共有し、商品に対するご意見や評価を真摯に受け止め、商品改良やサービス提供の参考にさせていただき、より満足いただける価値づくりに活かせるようにしております。

## 高品質な商品を安定供給する体制

アデランスグループは、高品質の商品をお客様にお届けするため、グループ内に生産工場を持ち、生産販売一貫体制をとっています。

主要生産拠点であるタイ工場では、安定した製品クオリティを維持するため、1999年にISO9001（国際品質管理規格）を取得しました。ISO9001とは、製品やサービスの品質を保証するための国際品質保証規格であり、企業の品質システムの透明性と信頼性を保証するものです。

## 業界水準の向上

当社は、毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるようにするために、業界団体の運営に取り組んでいます。

業界団体「日本毛髪業協会」の設立  
 2001年12月、当社を始め数社が中心となり、毛髪業界11社により、日本毛髪業協議会（現、一般社団法人日本毛髪業協会）を設立しました。毛髪業界の透明性を高めるため、毛髪に関するサービスと商品提供についての『ガイドライン』等を取りまとめ、業界の秩序維持に努めております。

経済産業省認可団体  
 「日本かつら工業協同組合」

1970年6月に通商産業（現経済産業）大臣より認可を受け設立され、業界で唯一の認可団体であることから、お客様からの質問やご要望の窓口として、また、関係省庁からの関連情報のとりまとめ窓口として活動しております。当社の根本会長兼社長が1991年から13年間理事長職に就き、業界の相互信頼や透明性の実現に尽力いたしました。なお、当社の根本会長兼社長を含む歴代理事長4名は、永年にわたる業界の発展・向上に寄与した功績により、社会から評価され、叙勲または褒章を受章しました。

## 適切な接客のための医療講習

当社では、2005年に初めて医療向けウィッグを発売しましたが、その際に、接客にあたるスタッフ全員に対して、外部講師による医療講習の受講を義務付けました。

医療向けウィッグの購入者は、多くが患者様であり、各疾病や脱毛の原因などに正しい知識を持つことや、お気持ちを十分に踏まえて接客することが重要となります。そのため、当社の医療講習は、皆様のお気持ちを十分に理解できるよう、配慮された内容となっております。

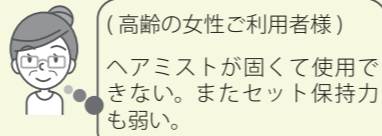
お客様が安心して商品を購入できる体制を整えるために、当社ではすでに1,300名以上の社員が医療講習を受講しております。

### クレドの概念

- 当社のクレドは、
- ① 経営理念
  - ② CSモットー
  - ③ 経営陣から社員への約束
  - ④ 我が社のありたい文化風土
  - ⑤ 我が社のありたい社員像
  - ⑥ お客様へのサービスポリシー
  - ⑦ ロイヤルサービス6つのステージ
- の7つの項目から構成されています。



### お客様の声



商品リニューアルした際に、女性高齢者でも使用できるかどうかの検証が不足していた。

メーカーと共同で改善し、高齢の方にも利用できるように改良した。

## お客様の安全第一

当社は、レディメイドウィッグの耳充て部分の止め材を、従来の銅仕様から耐食性（＝金属・木材などが腐食しにくいこと）のあるチタン合金に変更いたしました。銅は加工性がよいという特徴がありますが、汗による緑青の色落ちや金属アレルギーが危惧されるため、お客様の安全を第一に、そうした懸念の少ないチタン合金を採用いたしました。



チタン合金

## お客様へのサービスポリシー

1. ホスピタリティサービス  
 常に「思いやり」の心「感謝の心」「謙虚な心」「愛の心」を持って、お客様を第一に考え、誠実に考案すること、お客様へ「感動サービス」をご提供いたします。
2. パーソナルサービス  
 自ら気づき・感じる感性を磨き、常にお客様一人ひとりに最適な個別対応サービスをご提供いたします。
3. ウェルネスサービス  
 お客様に心豊かな生活をお送りいただくために、最適な商品・ホスピタリティをご提供いたします。
4. ユニバーサルサービス  
 お客様の立場や心情を理解し、思いやりを持って商品・サービスをご提供いたします。
5. 「NO」と言わないサービス  
 お客様のご要望に誠意をもってお応えします。難しい場合は、お客様の心情と状況をよく理解して代案を考え、ご提案いたします。
6. リレーションサービス  
 お客様情報を常に部署間で連絡し合って共有し、お客様に混乱・不安を与えない連携サービスをご提供いたします。
7. ビューティーナビサービス  
 お客様の魅力を最大限に引き出すために、トータルファッションとしての視点から、最適な商品をご提案いたします。
8. プラスワンサービス  
 「目配り」「気配り」「心配り」「ニーズの先読み」を常に心掛け、お客様へプラスαの付加価値あるサービスをご提供いたします。
9. クリーンネスサービス  
 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底し、お客様に快適な時間と空間を演出いたします。
10. ファストタイムサービス  
 「お客様をお待たせしない」ために、常に気を配り、何が出来るかを考え、お客様の立場に立ったご対応をいたします。
11. リマインド・リテンションサービス  
 お客様にご提供した商品の価値（良さ・楽しさ）やサービス体験（おもてなし）を思い出していただける感動サービスをご提供いたします。
12. ロイヤルカスタマーサービス  
 ご愛用されているお客様を「生涯のお客様」として大切に、高品質のサービスレベルを維持することで、「ロイヤルカスタマー」に育みます。



## 広告・表示に関する法令の順守状況

当社の商品の一つであるスカルプケア剤に表示すべき内容は薬事法に定められています（法定表示）。広告に関しては「医薬品等適正広告基準」（昭和55年10月9日・厚生省薬務局長通知）や「不当景品類及び不当表示防止法」等で規制されています。

また、当社が属する「一般社団法人日本毛髪業協会」では業界自主基準である「毛髪業界の取引に関するガイドライン」を定めております。その中に「広告表示に関する基準」があり、お客様を配慮した広告ガイドラインを設け、当社はそれに順守しています。



お客様サービス部 部長 伴 道憲

「心からのおもてなし」の実現のため、全社員共通の認識として「クレド」があります。これはマニュアル的なものではなく、適切な行動をとるための指針のようなもので、これらを体得することで、CS（顧客満足）につながると考えています。

アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、皆さまとの対話と共同活動を充実させて社会の課題と期待に応えるべく、社会的価値を創造する経営を推進しています。特に、アデランスグループの強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。

## ウィッグ文化の提唱

1983年にミュージカル「キャッツ」が劇団四季によって初演されました。キャッツの激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク、衣装デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。

当社独自の芸能用ウィッグは、その後、「オペラ座の怪人」、「美女と野獣」といった日本を代表する舞台芸術に協力し、その他さまざまな映画やテレビ、コンサートなどにおいても使用されています。

多彩な文化芸能活動へウィッグの提供を通じて、日本におけるウィッグ文化の提唱を行っております。



Photo by Atsutoshi Shimosaka

## ピンクリボン運動への協賛

当社は、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。

全社員にピンクリボンバッジを配布するとともに、「ピンクリボンマーク」スタンドを全営業店の受付に設置し、社員への意識づけを心がけています。また、社員の有志がピンクリボンスマイルウォークに参加しております。

## 海外での取り組み

(英国)

### 「My New Hair」への支援

「My New Hair」は、世界的なヘア・スタイリストである TREVOR SORBIE 氏によって設立された、がんや医療脱毛に苦しむ人々へウィッグのスタイリングサービスを提供する団体です。

当社の英国グループ会社である、トレンド・ヘア・サプライズ社では、同団体の教育・訓練とサービスのプロモーションの支援を行っております。



(タイ)

### ウィッグ製作時の廃材の利用

アデランスグループの生産拠点の一つであるタイの工場では、ウィッグ製作時に発生する廃材を、資源の無駄をなくし有効活用できないかと考え、造花、車拭きやクッション、サンダルなど多種多様な試作に取り組んでいます。現時点では、商品ではありませんが、現地での定年退職者への花束贈呈等に利用しております。

### ウィッグ製作の廃材を利用



スリッパ

造花

はたき

(米国)

### ピンクヘア キャンペーン

当社の米国グループ会社である、アデランス・ヘア・グッズ社では、ピンク色の付け髪 (Pink Hair Swatches) を販売し、乳がんの啓蒙と、同商品の収益を乳がん患者支援団体への寄付を行っております。



### Bosley Gives Back

当社の米国グループ会社である、ボズレー社では、ボズレー社の35周年を記念に、米国の兵役により被った頭髪問題を持つ方々へ、無償の毛髪再生プログラムを提供しております。

### 研究機関への支援

当社の米国グループ会社である、ボズレー社とアデランス・ヘア・グッズ社は、NAAF (国際円形脱毛症財団) の2011年の年次学会に協力し、100個のウィッグの提供を行いました。

### 日本の津波被害支援

日本の3.11の津波被害支援のため、ボズレー社と他米国子会社数社で支援金調達グループを作り、24,996ドルの支援を行いました。



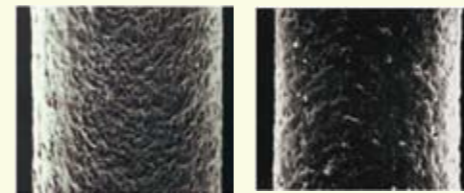
時代とともに変わる、お客様の毛髪に関する悩みに応えるため、アデランスグループがご提供できる分野も増毛や育毛へと展開し、さらに今後も積極的な研究開発を進めております。ここでは、その研究開発の概況をご紹介します。

## 人工毛髪への挑戦

これまでほとんどのウィッグには人毛が使われてまいりましたが、当社では、お客様へ安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究がスタートしました。

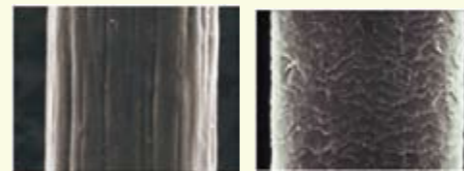
そして、1987年に、人毛のキューティクルに代わるものとして、高分子材料の特性を生かした球晶による擬似キューティクルを表面に形成させ、色褪せが無く、スタイルが崩れない人工毛髪の開発に成功しました。そして1990年より「サイバーヘア」の名称で商品化し、発売を開始しました。

さらに、雨や洗髪など、また空気中の水分で変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、2006年に商品化しました。



サイバーヘア

バイタルヘア ナチュラルヘア



一般的人工毛髪 (合成繊維)

天然毛髪

その後も、当社は研究開発に積極的に取り組み、多くの成果をあげています。最近の例として、東京工業大学と共同研究を行い、『プラスチック成形加工学会年次大会』で2009年から3年連続して研究発表を行っております。また、2010年にはイスタンブールで行われた国際学会『PPS2010 Istanbul Meeting』で当社社員が人工毛髪の研究発表を行いました。



お客様に提供できる  
毛髪分野の拡大

## 学術貢献として 毛髪関連学会等への協賛

当社は2006年4月に大阪大学大学院医学系研究科に『皮膚・毛髪再生医学 (アデランス) 寄附講座』を開設しました。日本における毛髪研究の第一人者である板見教授率いるグループの研究により、薄毛で悩む方々への新たな解決策の発見を目指しております。



板見教授 (右) と乾准教授 (左)

また、皮膚科医が正しい薄毛治療を行うための「男性型脱毛症診療」および「円形脱毛症診療」のガイドラインが、板見教授と乾准教授が策定委員として参加し、2010年にわが国で初めて制定されました。

当社は、2011年2月に開催された「日本臨床皮膚外科学会、日本臨床毛髪学会合同学術集会」に協賛し、当社米国子会社ARIのワシニック博士と乾准教授による「毛髪再生セミナー」を実施しました。また、日本皮膚科学会、日本毛髪科学研究会、世界毛髪研究会等に対し、毛髪に関する学術研究会議へのセミナー提供やスポンサーといった協賛活動も行っております。

## 実現間近な 毛髪再生医療研究

現在、アデランスグループの細胞培養を専門とするバイオテクノロジー企業 Aderans Research Institute (以下ARI) は、薄毛の悩みを解決する最先端技術として、毛髪再生医療研究に取り組んでいます。

ARIの毛髪再生医療とは、毛根を作る少量の毛包細胞を培養して頭皮に移植するもので、FDA (アメリカ食品医薬品局) のフェーズII段階へと臨床試験が順調に進んでおります。(2012年3月現在、全米各地で350以上の臨床試験を実施)



執行役員  
営業企画統括部長 兼 研究開発部長  
津村 佳宏

商品開発において、本社・現場・生産が一体となった商品開発を行うことで、優位性の高い商品の提供が可能になってきました。

また、アカデミックな助言や裏付けの取れたデータを元にした、育毛や毛髪再生の研究成果などを発表し、学会等から注目を集めています。

商品力を高めることで、お客様の喜びの輪を広げていきたいと考えています。

アデランスグループは、CO<sub>2</sub> 排出量などの環境負荷の削減を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や、事業所での CO<sub>2</sub> 排出量の削減など、環境への取り組みを進めています。ここでは、アデランスグループの環境方針とその取り組み状況をご紹介します。

## 環境方針

この地球の恵みの一つである自然環境は急速に失われつつあり、次の世代への継承が危ぶまれる今、地球の恵みに感謝し、保全しながら事業を営むことは、企業のあるべき姿だと考えます。アデランスグループでは、「生物多様性の保全（自然環境の保全）」と「CO<sub>2</sub> 削減」「省資源」の3つを目指して、取り組んでいます。

## タイ工場における ISO14001 の取得

アデランスグループの生産拠点であるタイ工場において1999年、ISO14001（国際環境管理規格）を認証取得しました。ISO14001は地球環境保全活動の認証資格であり、環境保全の取り組みとして、以下の活動を継続して実施しております。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善



## ライフサイクル全体での商品の環境対応

### 環境にやさしい「グリーンADフィッター」

当社は、オーダーメイドウィッグを作製する際に、お客様の頭の形と自然な髪の毛の流れを再現できる、「グリーンADフィッター」と呼ばれる特殊樹脂製品を使用しております。

このフィッターは、生分解性と安全性が一定基準以上にあることが確認されたプラスチックを使用し、2002年9月に日本バイオプラスチック協会のグリーンプラマーク取得製品リストに登録されました。（登録No301）

アデランスグループは、環境にやさしい素材の導入に取り組み続けて参ります。



### タイ工場での植林

ウィッグ製作時に生じる廃材をリサイクル業者へ売却し、その収益で工場地内に植林を行っています。



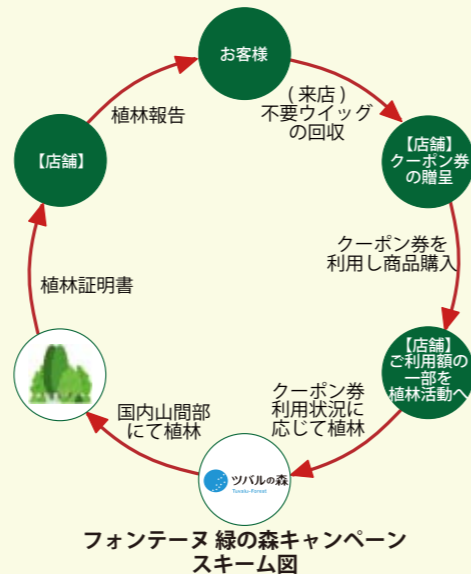
### 不要ウィッグの回収と「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」

当社は、2009年より「フォンテーヌ 緑の森キャンペーン」と称し、環境コミュニケーション企業である「ツバルの森」を通じ、国内の山に木を植える活動を行っています。



具体的な仕組みは、お客様が不要になったウィッグを店舗にお持ちいただくと、次回の購入の際に利用できるクーポン券をお渡します。そのクーポン券を使用し、ウィッグを購入するたびに当社が売上の一部を拠出し、植林活動に活用されるというものです。また、不要になったウィッグは、当社が責任を持って廃棄処理を行うことで、環境負荷の低減にもつながります。

現在4年目を迎え、累計400本以上の植林実績を残しております。



## 店舗・オフィスでの環境対応

### 節水用シャワーヘッドの導入

当社では、理美容技術を提供する営業店舗に節水用シャワーヘッドを導入し、水道水の節水や温水化するためのCO<sub>2</sub>削減に効果を発揮しております。一般的なシャワーと比べ50%程度の節水が可能となるだけでなく、カートリッジにビタミンCを入れることで塩素除去につながり、お客様の頭皮に優しく、従業員の手荒れ防止にも役立っております。

現在、全国180店舗以上の店舗に導入して、大きな節水効果以外に、洗浄時間の短縮が可能となりました。



従来のシャワーと比べ、圧力が高いため、頭髮の奥まで水が浸透するだけでなく、少ない水量で済むため、水温を温めるガス使用量も最大50%削減できます。

### 店舗等での節電に関する対応

当社は、先般の東日本大震災の発生による、全国的な電力量不足への対応のため、国内全社一丸となって、より一層のエネルギー節減に取り組み、照明間引き点灯、空調運転時間の調整、店舗以外のオフィスでのクールビズなどの節電活動に努めております。

また、節電を呼びかけるポスターを随所に掲示し、昼休み一斉消灯、不在エリアの消灯等を広く社員に呼びかけ、グループを挙げての節電活動に取り組んでおります。

## アデランスグループの環境負荷

オフィス・店舗（日本国内）  
集計期間：2011年4月～2012年3月

電気使用量 **13,580 千 kWh**  
(対前年比 ▲26.0%)

ガス使用量 **34,668 m<sup>3</sup>**  
(対前年比 ▲61.1%)

灯油使用量 **1,612 ㍓**  
(対前年比 ▲7.0%)

二酸化炭素排出量 **7,694 t-CO<sub>2</sub>**

環境省・経産省発行の「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」のCO<sub>2</sub>排出係数より算出しました。

工場（タイ工場）  
集計期間：2011年1月～2011年12月

電気使用量 **1,239 千 kWh**

軽油使用量 **2,675 ㍓**

水使用量 **10,049 m<sup>3</sup>**

# ステークホルダー・ダイアログ

当社の CSR のこれまでの活動とこれからの目標をテーマに、コンプライアンス、企業倫理や CSR 経営を専門とする田中宏司氏から、外部の有識者としての意見をいただきました。

(実施日：2012年7月6日)



## 田中 宏司氏

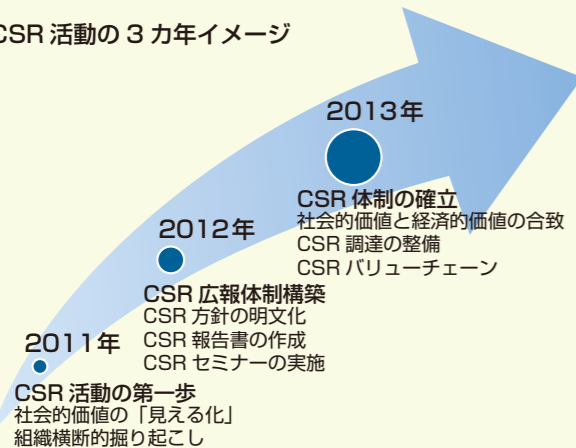
東京交通短期大学 学長・教授  
 (社)経営倫理実践研究センター  
 理事・首席研究員  
 日本経営倫理学会前副会長  
 経済産業省  
 「ISO26000 JIS 化本委員会」委員

## 社会的価値の「見える化」に取り組んだ CSR プロジェクトの一年目

**箕輪** 当社では、「お客様の毛髪のお悩みを解決するため」のために、当社が実現できる価値や強みを「事業と一体化」することにより、「企業価値の向上」に寄与することを目指しています。この1年間は、それまで「CSR」と意識せずに行ってきた当社の社会的価値を「見える化」することに取り組んできました。

**田中** 1年目の取り組みとして、活動を分かりやすく整理するという「見える化」は大切です。貴社の CSR 活動には、「愛のチャリティ・キャンペーン」など社会貢献的要素が強い活動と、事業活動と深く関連した「病院内理美容室のバリアフリー」や「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」などの活動があります。特に、後者での多種多様な活動は、ユニークなものと考えております。

### CSR 活動の3カ年イメージ



## 現場視点の CSR 意識の醸成

**箕輪** 当社では、コンプライアンスセミナーを営業本部主導で行うなど、営業部門と一体感のある中、CSR 意識の醸成に取り組んでいます。

**田中** お客様が一番近い営業部で、コンプライアンスを浸透させることは、信用の要です。貴社の取り組みは画期的です。

## CSR は経営そのもの

**田中** 多くの優れた企業の事例を見ますと、CSR とは「経営そのもの」だと感じます。日々の業務そのものが社会的価値に直結し、業務を通じて社会貢献できることが企業の社会的責任の本質ではないかと思えます。CSR の定義や内容は、各企業が、それぞれの事業に即して定義し取り組むべきで、それが持続的で息の長い活動につながります。

## 今後の CSR の取り組みの課題

**箕輪** これからの課題は、CSR を広報力へ反映させること、そして CSR 調達の視点を徹底し、お取引先との信頼感を得ていくことです。お客様、お取引先、社員、株主・投資家、地域社会といったステークホルダーの皆様との関係の中に CSR を位置づけていくことを定着させたいと考えています。

**田中** 貴社は、創業者の思いや考え方が浸透しており、社員がそれに向かって整然と取り組んでいる会社だと感じます。今述べられた取り組みを進める上で、ISO26000 などの国際規格を参考に、CSR の仕組みを組織に組み込むと、強い企業基盤につながると思っています。今後の取り組みに期待しています。



CSR プロジェクト 部長  
 箕輪 睦夫

# 海外子会社での主な取り組み

アデランスグループの海外子会社においても、国内の CSR の取り組みと連動して、以下のような活動を実施しております。

## ヨーロッパでの取り組み

活動内容	実施会社
alopeciaonline：脱毛症患者支援団体への協力	THS, DVN, CML
TAG：脱毛症患者への支援協力	THS
Look Good Feel Better：脱毛に悩むがん患者のための美容支援	THS, DVN, CML
Pink October：乳患者を支援する団体への協力	
Cancer Charities: がん患者への支援	CXF, THS, CML
TheLittlePrincessTrust：ウィッグ向け材料として、子供から人毛取獲しない活動への協力	THS
Stichting Haarwensen：ウィッグ向け材料として、子供から人毛取獲しない活動への協力	DVN
My New Hair：がんや医療脱毛患者へスタイリングサービスを提供する団体への協力	THS
Toni&Guy：ヘアスタイリスト養成学校への協力	THS
がん病院へのウィッグ提供	CXG
地元サッカーチームへのスポンサー	CML
SOS 子供村へのスポンサー	CML

CML: Carl M Lundh AB (スウェーデン)  
 CXG: Creations de Paris Camaflex Vertriebs G.m.b.H. (ドイツ)  
 CXF: Camaflex S.A.S. (フランス)  
 DVN: D.Van Nooijen B.V. (オランダ)  
 THS: Trend Hair Supplies Co., Ltd (イギリス)

## アメリカでの取り組み

活動内容	実施会社
Bosley Gives Back：米国兵への無償毛髪再生プログラムの提供	Bosley
Nautica Malibu Trithlon：子供病院の資金集めのためのトライアスロン出場	Bosley
Bosley Donates Computer Monitors：ドナルド・マクドナルド財団への支援	Bosley
Red Cross Fundraising for Japan Tsunami：日本の3.11の津波被害支援のための資金集め	Bosley, AHG, ARI, AAH
Bosley Supports Food Banks：貧困者の食糧事情改善を目指す団体への協力	Bosley
Denim day at Bosley：デニムを着用することで女性がん支援につながるプログラム	Bosley
Bosley Protects the Environmnet：近隣地の植林ボランティアへの参加	Bosley
Bosley Donates Life：臓器提供への協力を呼び掛ける団体への協力	Bosley
National Alopecia Areata Foundation：国際円形脱毛症財団への協力	Bosley, AHG
ARI Supports Education：地元高校生・大学生への教育支援	ARI
乳がんの啓蒙と、乳がん患者支援団体への寄付を行うピンクヘアキャンペーン	AHG

AAH: Aderans America Holdings, Inc.  
 AHG: Aderans Hair Goods, Inc.  
 ARI: Aderans Research Institute, Inc.

## アジアでの取り組み

活動内容	実施会社
タイ工場の ISO9001 の取得	ATI, WQC
タイ工場の ISO14001 の取得	ATI, WQC
ウィッグ試作品を国立がん病院等への提供	ATI
ウィッグ製作時の廃材を利用したグッズの試作	ATI
ウィッグ製作時の廃材を売却益にした植樹活動	ATI

ATI: Aderans Thai, Ltd. (タイ)  
 API: Aderans Philippines, Inc. (フィリピン)  
 WQC: World Quality Co., Ltd. (タイ)